

分野	授業科目名	単元名	単位数	時間数	履修時期	担当教師
専門分野Ⅰ 基礎看護学	臨床看護総論	経過別看護 症状別看護 指導技術	1	30	2年次前期～後期	非常勤講師 阿部 真理

テキスト(発行所)	<p>ナーシンググラフィカ 成人看護学①成人看護学概論 メディカ出版</p> <p>ナーシンググラフィカ 成人看護学④セルフマネジメント メディカ出版</p> <p>指導技術—プリントを配布</p> <p>症状別看護—看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント(学研)</p>
-----------	--

学習のねらい	あらゆる対象に共通する経過、症状の看護の基礎および指導技術について理解する。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における経過の概念と、各経過における看護の特徴を理解する。 2. 患者指導の目標について理解する。 3. 教育計画を立案し、計画に基づいて実施および評価ができる。 4. あらゆる対象に起こりうる代表的な症状の原因、誘因およびメカニズムと成り行き、看護のポイントを理解する。

学習スケジュール			
回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	経過別看護の特性 急性期看護	<ul style="list-style-type: none"> ・看護における経過 ・急性期の概念 ・急性期患者の特徴 ・危機理論 ・急性期にある患者の看護 	講義
2回	回復期看護	<ul style="list-style-type: none"> ・回復期の概念 ・回復期患者の特徴 ・回復期にある患者の看護 	講義
3回	慢性期看護1	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性期の概念 ・慢性期疾患の治療の特徴 ・慢性期患者の特徴 ・「病みの軌跡」 	講義
4回	慢性期看護2 教育技術1	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性期にある患者の看護 ・看護における教育的活動の意義 ・患者教育の目標、要点、方法 	講義
5回	教育技術2	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の教育計画立案 	GW
6回	教育技術3	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の教育計画発表 	GW発表
7回	終末期看護1	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期の概念 ・終末期にある患者のトータルペイン ・終末期にある家族のトータルペイン 	講義 (非常勤講師)
8回	終末期看護2	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアとは ・症状のアセスメントと援助 ・スピリチュアルペインとケア ・グリーフケア 	講義 (非常勤講師)

9回	ホスピスケアの見学	・ホスピスにおける看護	施設見学予定 見学後レポート
施設見学後レポート課題:終末期にある患者の看護を学習してみて、考える自己の死生観について述べる。 A4サイズ用紙1枚以上。引用・参考文献を用いても可。提出期限は別途提示する。			
10回	終末期看護	・危篤時の看護 ・死の三兆候・死亡時の看護	講義
11回目以降の講義説明:グループワークの内容とグループ決定 症状別 ポートフォリオ作成準備			
11～15回	症状別看護	・呼吸困難のある患者の看護 ・喀痰、咳嗽のある患者の看護 ・血圧異常のある患者の看護 ・浮腫のある患者の看護 ・倦怠感のある患者の看護 ・疼痛のある患者の看護	ポートフォリオ 発表・講義
単位認定の 方法	1. 30時間のうち、24時間以上の出席があること。 2. 評価 1)パフォーマンス課題 50点 2)筆記試験 50点 1)2)の点数を合計し、60点以上で合格とする。 3.1と2の両方の要件を満たして1単位認定する。		
受講上の アドバイス	臨床看護総論は、あらゆる看護の対象に共通している経過と症状と指導の方法について学びます。成人看護学をはじめとする他の領域の看護との関連も深い科目です。臨地実習においても対象理解をする際に、「経過」と「症状」は欠かせない内容です。例えば、患者さんは、突然「痛い！」と訴えてこられます。そのとき、看護師としては、今は病気の経過としては、どの時点にいるのか、どこが、どのように痛いのか、なぜそのような症状が起こっているのかをアセスメント(解釈・推理・推論)していき、どうすれば患者さんの苦痛を取り除き、安楽な状態にすることができるのかを考えなければなりません。その後、実施した看護の評価も行います。 アセスメント(解釈・推理・推論)するためには、今まで学習してきた、解剖・生理学や病因論や機能障害などの知識と関連させていくことが必要です。 終末期看護では、ホスピスケアを実践されている施設の見学を行います。 講義・施設見学を通して、自身の死生観や看護について考えを深めてほしいと思います。		